

Going Beyond



アキタ株式会社

DX戦略

“物流の明日”をDXを通して切り拓く

2025年4月1日



Copyright (C)2025 AKITA-INC CO.,LTD. ALL Rights Reserved

パーパス

ライフラインの要(かなめ)としての誇りを持って

終戦から2ヶ月後の昭和20年10月、空襲の傷跡が残る尾張の地に当社の前身『秋田運輸』は誕生しました。

創業当初はトラックではなく馬車を使っていた運搬を生業（なりわい）とし、戦後復興とともに運送の主役はトラックに。当社も昭和23年には法人に改組、暮らしと経済を支えるライフラインである物流の一担い手として、着実に歩を進めて参りました。

時代や環境が大きく変化していく中で、われわれは「重要な社会インフラである物流を通して豊かな社会を実現する」という大きな使命に誇りを持ち、今後も社会に必要とされる企業であり続けてまいります

トップメッセージ

創業から79年、アキタは一貫して実輸送を旨とし、輸送品質の向上に邁進して参りました。

当社では2020年からロボットを活用したIT点呼システムを本格導入、また研修センターでは、全国の事業所を結んだ「オンライン研修」と専任教官が全国各地に出向いて行う「実務実習」を組み合わせ、スピーディかつ確かな知識とスキルの伝承を実現しております。

加えて2021年秋には社内情報共有デバイスを全乗務員に支給、2022年中には全車両にGPSを活用したクラウド型動態・運行状況管理システムを導入いたしました。

かつてはトラックドライバー個人の「職人技」「職人氣質」に頼ることの多かった運送実務とその管理を高レベルで標準化することで、組織の力による安心安全な運行と高い輸送品質の実現をめざしております。

これはドライバーや運行管理者の負担軽減を実現することで、業界が抱える慢性的問題である人材不足・高齢化を解決していこうという試みでもあります。

また、環境負荷への対応や、デジタル技術を活用した業務プロセスおよび物流全体の最適化を推進すると共に、データに基づいたタイムリーな意思決定を実現し、ビジネスの持続的な成長を目指しております。その実現のため全社員へITリテラシー向上のための教育や、事業支援本部の実行力向上も継続して図ってまいります。

常に進取の気性を持ち、豊かな社会を根幹から支える存在として、一層邁進していくアキタの今後の飛躍にご期待ください。

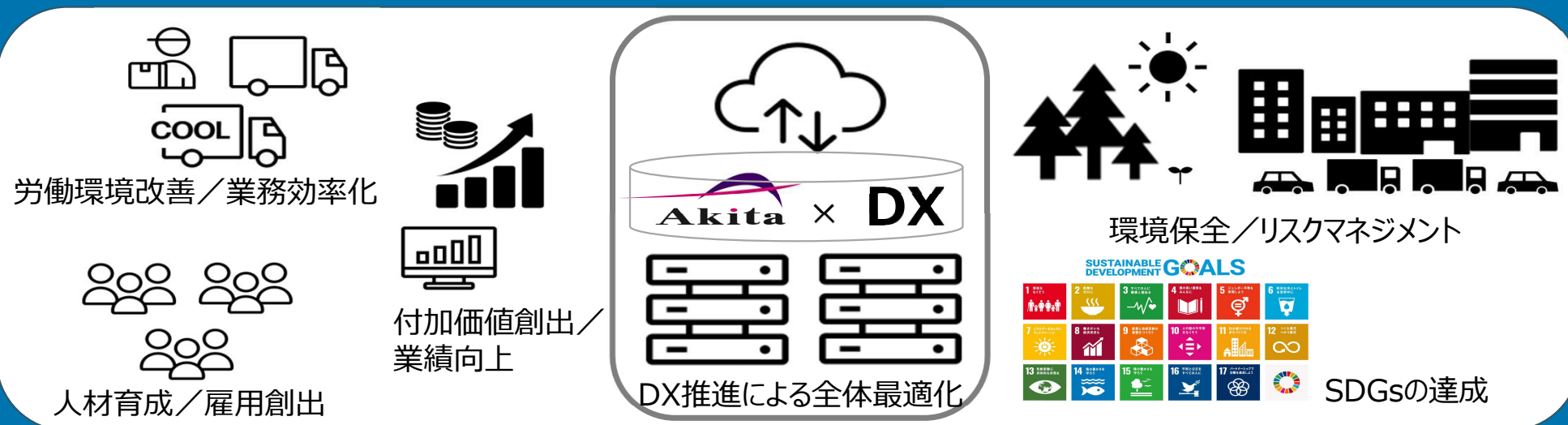
2025年4月1日

代表取締役 原田 謙治

経営ビジョン

2024年を迎え、物流業界は人材不足や環境問題などといった未曾有の課題に直面しています。今や、データ活用とデジタル技術の進展により、当社を取り巻く環境は激変し、技術導入は競争力維持に必須のものとなっており、現在の物流企業には安全性、環境負荷の低減はもとより、効率性と柔軟性を両立し、物流品質向上を推進するためのビジネスの深化、変革が求められています。

それら課題の解決へ向けて従来から当社では物流業務のデジタル化に取り組んでまいりました。単なるデジタルツールの導入に留まらず、様々なデータを複合的、俯瞰的に連携し、さらなる物流DXの推進により、「ヒト」、「モノ」、「環境」の最適化と企業の高付加価値化を継続的行ってまいります。



基本戦略

経営ビジョンの全体共有を推進し、チャレンジできる企業文化を醸成

多様化するお客様のニーズに的確に対応するために、配車担当者や社内関係部門がリアルタイムで車両の現在地情報や作業状況を共有する「動態管理システム」をすでに導入しています。また運行管理者の人的負荷の低減や運行管理品質の標準化を期待すべく「遠隔点呼」や「ロボット点呼」導入にも業界でいち早く取り組んでまいりました。

さらなるデータドリブンにより、環境把握から業績把握までを迅速化し、スピーディな経営的意思決定を実現してまいります。

基幹システムの刷新により、受注・運行データおよび労務データとの連携と集約を図る

DX推進により、クラウドベースによる基幹システムの刷新を行い、社内外から得られる様々なデータを収集・集約したデータの利活用を推進します。受注データとドライバーをはじめとした社員の労務データを基幹システムを介し全社的に集約し、タイムリーなデータ利用の実現を目指します。

動態管理システムの活用範囲を拡大し、荷主様との連携・配車の最適化を推進する

動態管理システムを自車のみならず、荷主様とも情報を共有し、連携活用することで取卸時間の共有や待機時間の削減の削減等に取り組むとともに、顧客利便性の向上を目指します。

基本戦略

受注データの管理会計と財務会計システム連携による収支把握の迅速化

受注データの基幹システム連携のみならず、管理会計システムならびに財務会計システムとも連携を行い、業績状況をスピーディかつリアルタイムで把握できる仕組みを構築します。

物流KPIとの比較精度の向上

経営環境やビジョンに則した適切なKGIとKPIの設定

遠隔点呼の推進と集中点呼センターの確立による人的負荷の削減

経営ビジョンの全体共有を図り、クラウドベースによるIT基盤の刷新とシームレスなデータ連携を推進し、迅速かつ的確な意思決定を支える仕組みを構築します。また人材育成と適切な投資計画を通じDX推進の中核となる人材を育成し、組織全体の変革を図ります。今後IT基盤構築だけではなく、DX推進に資する人事制度の見直しを含め、チャレンジできる企業文化の醸成を進め、経営全体に対する取り組みを強化することで持続的な成長を推進します。

DX人材の 獲得・育成

積極的なIT人材の登用・育成と、全社的な情報リテラシーの向上とセキュリティ教育の継続的实施

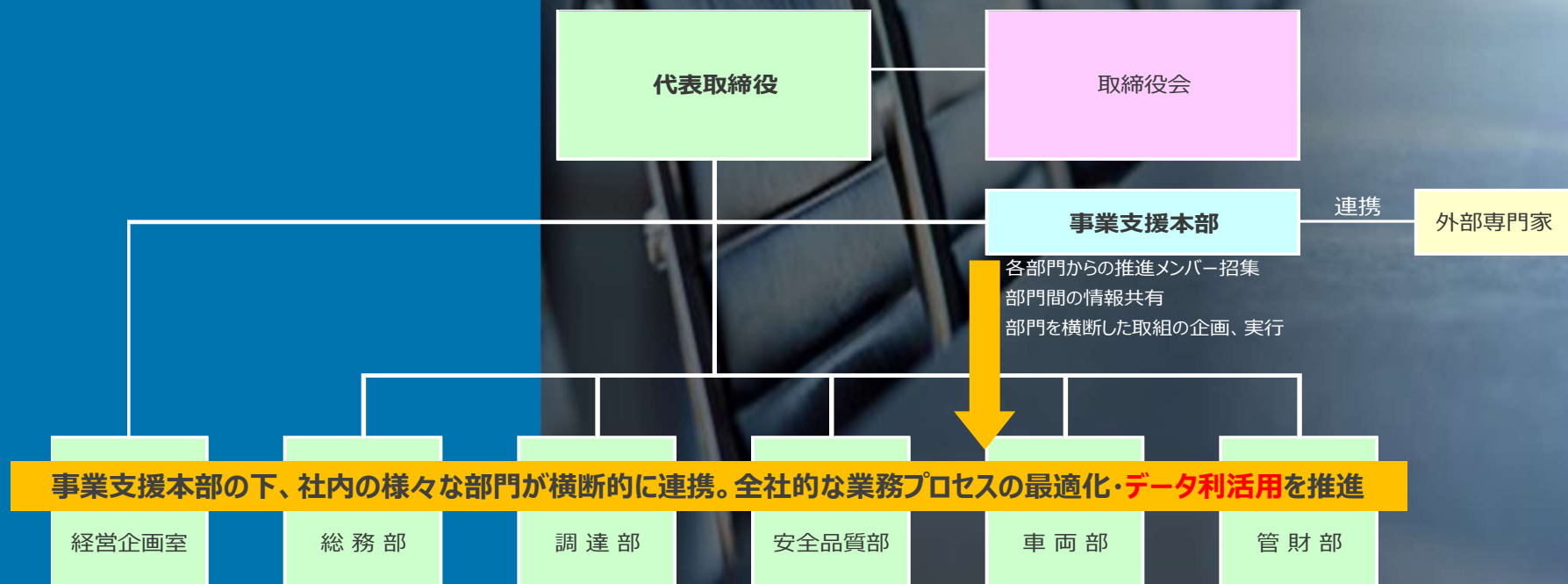
全社を通じたITリテラシー向上のための「eラーニング」実施による一体感あるDX推進

配置転換による多能工化と社内コミュニケーションの活性化

各部門から抜擢された事業支援本部メンバーを中心に「事業理解」を深めるとともに、IT担当者は「技術動向把握」スキルの習得を推進します。
各種研修と資格取得支援を通じてスキルアップを行い、DX推進を司るデジタル人材を育成します。
また事業支援本部メンバーは課題の共有、部門間および社外とのコミュニケーションを積極的に行い、システム開発・構築を協業する外部組織との効率的な連携を推進します。

DX戦略 推進体制

経営直轄の『事業支援本部』を設置し、各部門データや運行データを横断的な利活用をおこない、労務、財務、配車の最適化、課題解決の取り組みを推進してまいります。
メンバーはIT担当者だけでなく、経営、IT、事業部門一体となったものとし、組織全体のDX推進の計画、推進、モニタリングのPDCAサイクルを継続的に回し続けるものとします。
さらには、外部システムベンダーのみならず、労務や財務の専門家との連携しDXを推進してまいります。



DX関連 投資計画

DX関連投資額 ■ 年間売上げの0.5%相当額

2024年度～2026年度にかけ、年間売上の0.5%相当額をDX関連事業に投資いたします。経営ビジョンに沿ったIT化、DX戦略推進を達成するために、適切なデジタル環境のための各種デバイスやインフラの整備強化に加え、以下の実施を加速させてまいります。

物流業務の効率化を目指した業務関連支援ツールのデジタル化推進

基幹システムの構築と業績KPI算出の高度化

デジタルセキュリティ対策強化、BCP対策

DX推進に向けた 制度の実現

KPIを適切に評価する人事制度の再整備への試み

DX推進のKPIを適切に評価する人事制度は、組織全体のデジタル変革の成功に不可欠であり、変革を支える文化と行動の定着を促進すると考えます。
DXによる持続的な企業価値向上を制度面においても支えるため、取組を明確に評価していける仕組みの構築を目指してまいります。

成果の可視化と評価基準の明確化

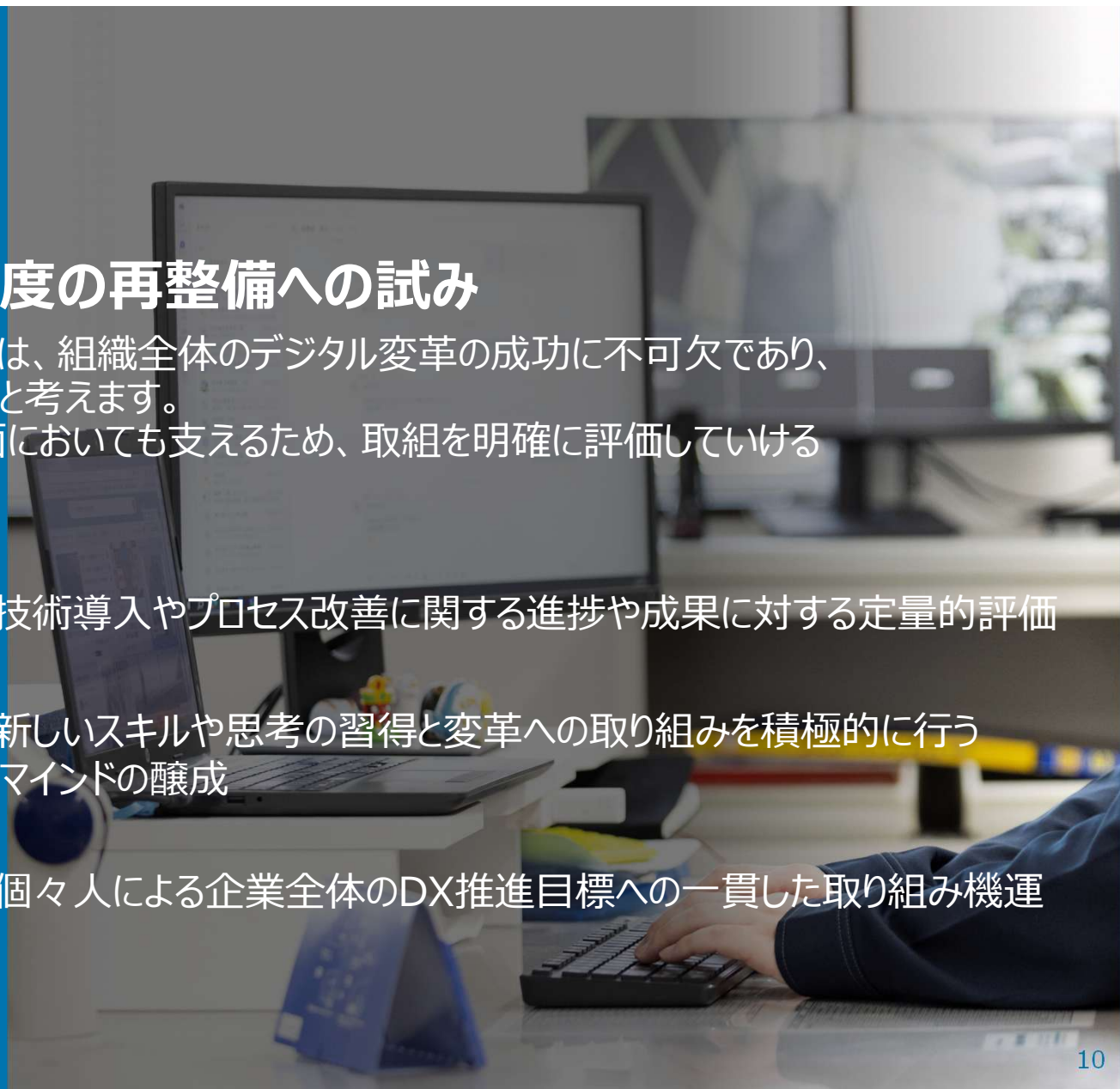
- ・ 技術導入やプロセス改善に関する進捗や成果に対する定量的評価

変革推進のインセンティブ

- ・ 新しいスキルや思考の習得と変革への取り組みを積極的に行うマインドの醸成

企業全体の目標達成を支援

- ・ 個々人による企業全体のDX推進目標への一貫した取り組み機運



DX推進指標 (KPI)

当社の重点取り組み事項と3年後の目標値は以下の通りです。
定期的に達成度を評価し、進捗度合いにより是正策の立案をまいります

人材開発、体制整備

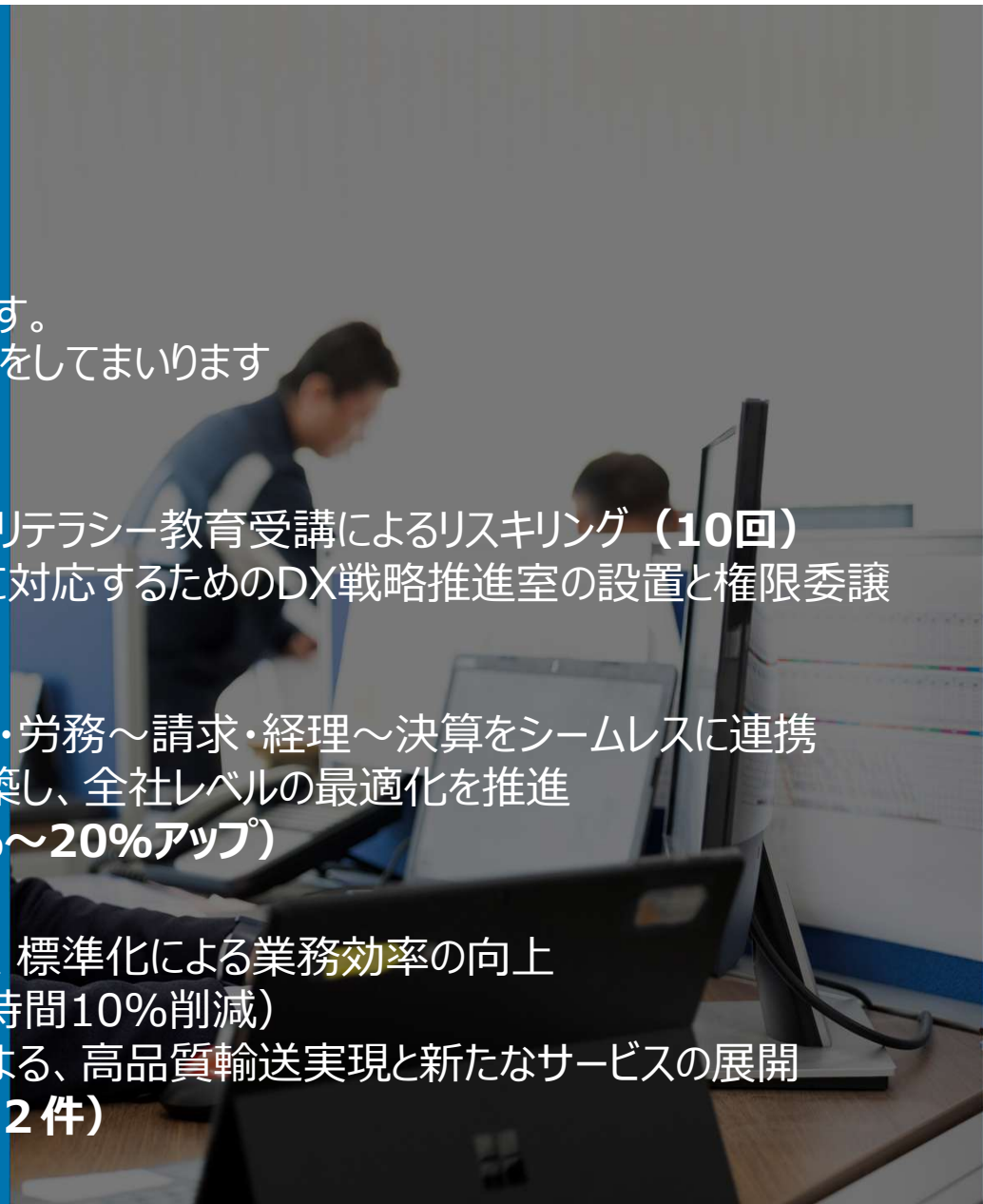
- ・ eラーニング等、情報リテラシー教育受講によるリスキリング **(10回)**
- ・ 迅速な行動と問題に対応するためのDX戦略推進室の設置と権限委譲

デジタル化推進とデータ連携

- ・ 受注～配車～運行・労務～請求・経理～決算をシームレスに連携したシステム群を構築し、全社レベルの最適化を推進
(労働生産性15%～20%アップ)

効率化と高付加価値化

- ・ 配車業務の省力化、標準化による業務効率の向上
(配車業務の所要時間10%削減)
- ・ データ分析と活用による、高品質輸送実現と新たなサービスの展開
(新サービスの創出2件)



KEEP GOING AKITA.

アキタは止まらない。走りつづける。